



Data
監督：大友啓史
原作：真山仁『ハゲタカ』『ハゲタカ』（講談社文庫刊）、『レッドゾーン』（講談社刊）
脚本：林宏司
出演：大森南朋 / 玉山鉄二 / 柴田恭兵 / 栗山千明 / 高良健吾 / 遠藤憲一 / 松田龍平 / 中尾彬

## 👁️👁️ みどころ

テレビドラマの安易な映画化に批判的な私だが、本作だけは例外。注目の第1は、世界的金融危機や派遣切りなどの最新情勢を取り入れた脚本の妙。第2は、中国残留日本人孤児3世だというファンドマネージャー劉一華（リュウ・イーファ）の登場。そんな彼の出生の秘密とは？映画後半の想定外のダイナミックな展開は、前半のアカマ自動車をめぐるTOB（株式公開買付）合戦以上に面白い。こういう骨太の社会派作品は是非大ヒットさせなきゃ！

### 「テレビドラマ」とは異なるもう1人の主人公は？

NHKで放送された、久々に硬派で骨太なテレビドラマが『ハゲタカ』。6話にわたるその放映は2007年2月17日から3月24日までだったから、これは現実にはライブドアとフジテレビによる日本放送株争奪戦が起きた2003年をピークとして、わが国ではじめて問題視された投資ファンドによる企業の敵対的買収問題は盛りを過ぎていた時期。にもかかわらずこのテレビドラマ『ハゲタカ』は世界で最も権威のある国際番組コンクール「イタリア賞」など数々の賞を受賞したためその映画化が企画されたわけだが、そんな中で起きたのが、2007年10月のサブプライムローンに端を発し、2008年9月のリーマン・ショックによって広がった世界的金融危機。

テレビドラマ『ハゲタカ』の主人公は、鷲津政彦（大森南朋） 芝野健夫（柴田恭兵）、西野治（松田龍平）、三島由香（栗山千明）の4人だったが、そんな新たな局面下では、ライブドアVSフジテレビの株争奪戦や、株主総会模様だけを描いたのでは時代遅れ？そんな視点から、映画で新たに登場させた「赤いハゲタカ」を自称するもう1人の主人公、劉

一華（玉山鉄二）の果たす役割とは？そしてまた、何回も書き直したらしい脚本家林宏司が描いた、新たなハゲタカたちの闘う姿とは？



(C) 2009「ハゲタカ」製作委員会

## 中国の国策ファンドの登場は、本作がはじめて？

日本の国家財政は大赤字だが、個人の持つ金融資産は少し減ったとはいえ、なお2008年末の残高で約1434兆円もある。それがタンスの奥に眠っていたのでは景気対策上何の役にも立たないため、現在それをいかに消費に回そうかと躍起になっているのが日本の哀れな現状。そんな中一時期まじめに検討されたのが、日本製の国策ファンドの形成だ。ファンドといえば聞こえがいい(?)が、それは一種のバクチ資金だから「絶対安全か?」「元本割れはないか?」と日本人的心配をしていると組成できなくなってしまうのは当然。そのため結局、国のカネを国策ファンドに回すことも、国民のタンス貯金を国策ファンドに集めることもできなかったのは、残念。

そんな中、近時報道されたのが中国の国策ファンドの形成だ。ちなみに、水資源の不足に悩む中国は、最近奈良県境に近い山あいにある三重県の大台町の水源地となっている宮川ダム湖北を視察した上で、「いい木があるので立木と土地を買いしたい」と湖北一帯の私有地約1000ヘクタールの買収を町に仲介してほしいと持ち掛けたことが、2009年5月12日付MSN産経ニュースで報道されたが、そのバックは中国の国策ファンド?金融危機に陥った中、アメリカのオバマ大統領は2009年2月、経済安定化法案にもとづい

て予算総額7800億ドル(約72兆円)のうち、減税分3500億ドル以外の約4300億ドルの財政出動を決断したが、その元手となる資金は国債発行でまかなうことになる。そして、今や中国は日本と並ぶ最大の引き受け国だから、中国の資金力(外貨準備高)は潤沢だ。私が興味深かったのは、多分本作が映画初登場となる中国の国策ファンドの幹部は、全員中国共産党の幹部だということ。これは林宏司脚本が描いた姿に過ぎないが、実態は当たらずといえども遠からずだろう。

## 劉の提案は本気?それとも?

そんな中国の国策ファンドが、日本有数の自動車メーカーであるアカマ自動車買収の任務を与えたのがブルー・ウォール・パートナーズの劉一華。映画の冒頭、中国の田舎村の畑で働く1人の少年の目の前を、日本製の真っ赤な車が走り抜けるシーンが登場する。少年はその車を見開いた目でじっと見つめていたが、その思いは一体ナニ?そんな少年が成長した今、ブルー・ウォール・パートナーズの代表としてアカマ自動車の買収に乗り出したわけだが、それはいわゆる敵対的買収?記者会見で彼は「自分は日本人残留孤児の3世だ。養親と母国中国には恩義を感じているが、自分は日本人だ」と自信満々なファンドマネージャーらしからぬ心の中の思いを披瀝した後、「アカマ自動車のような優良企業をもっと伸ばしたい。そのための3つの提案だ。」と切り出した。それを聞く限り、こりゃ敵対的買収ではなく、友好的買収?果たして、この劉という男は信用できるの?そして、彼の言う3つの提案は本気?それとも単なるポーズ?



(C) 2009「ハゲタカ」製作委員会

## あの男は今どこに？その再登板は？

テレビドラマ『ハゲタカ』の主人公は、鷺津ファンド代表の鷺津政彦。彼のことを今やすっかりマイナスイメージが定着してしまったハゲタカファンドと呼ぶかどうかはともかく、そもそも金融支援をしてくれるファンドのことを十把一絡げに「ハゲタカ」という言葉でくくってしまう日本的発想は実にナンセンス。もっともテレビドラマでは、威勢よく「腐ったこの国を買いたたく」と豪語していた鷺津も、テレビドラマが終わり本作が作られた今は、日本の資本主義やマーケットのあり方に絶望し、隠遁生活を送っていた。

他方、ブルー・ウォール・パートナーズからのTOB（株式公開買付）の提案を受けたアカマ自動車の社長古谷隆史（遠藤憲一）は直ちに、こんな時のために高い給料を払ってきた企業再生家であり執行役員である芝野健夫を長とする対策チームを立ち上げた。そして芝野がホワイトナイトとして白羽の矢を立てたのが、かつての上司令部の関係にあった鷺津だ。もっとも、引退して今はたった1人外国の海辺でブランデーを飲んでいる姿と、芝野の要請を引き受けた後直ちに六本木ヒルズを思わせる（？）鷺津ファンドのオフィスで多くのスタッフを前に陣頭指揮を執る鷺津の姿はあまりにもアンバランス。そんな揚げ足取り的なケチづけはさておき、鷺津はアカマ自動車のホワイトナイトとしてどんな対抗策を？

## TOBの争点は？

本作が2005年に製作されていたとすれば、まちがいなく裁判所への仮処分申請とそこでの法的判断のあり方が論点になっていたはず。しかしスティール・パートナーズ・ジャパンがブルドックソースに仕かけたTOB攻勢に対して、ブルドックが講じた買収防衛策を適法と認めたブルドックソース事件の判例（東京地裁2007年6月28日、東京高裁7月9日、最高裁8月7日）によって、日本では既に1つの結論が出てしまっている。そんな状況下で本作が描くTOB合戦が、買付価格の値上げ合戦のみになるのはある意味やむをえないところ。しかしこれでは、互いにどんな知恵を絞り出すのかという問題ではなく、どちらのファンドの資金力が大きいかだけの勝負になってしまうから、観ていてあまり面白くないのは当然。そして、劉一華のバックに中国の国策ファンドがついているとわかった以上、鷺津の敗北は火を見るより明らか？

## 西野と由香の役割は？

近時の邦画のヒット作は、『花より男子ファイナル』（08年）『容疑者Xの献身』（08年）『相棒 - 劇場版 - 』（08年）などテレビと連動したものが多い。すると、テレビドラマで大反響を呼んだ『ハゲタカ』の劇場版も大ヒット？本作の試写を見逃していた私は、そう思いながらTOHOシネマズ梅田へ向かったが、「シアター3」という大きな劇場があ

てられているにもかかわらず観客はガラガラ。こりゃ一体なぜ？やはり映画館に観客を集めるには、おもしろおかしい作品で若者を呼ばなければムリなの？

私はテレビドラマを全部きちんと観ていなかったから、西野治と三島由香の過去については全然知らなかったが、本作ではハゲタカファンどにまつわる2人の過去についても、要領よく説明してくれている。すなわち、西野は鼎国してきた敏腕ファンドマネージャーの鷺津によって、父親の経営していた老舗旅館「西乃屋」をつぶされた人物。そして由香は、かつて鷺津が勤めていた三葉銀行の貸し渋りによって、父親の経営していた小さな町工場をつぶされた人物なのだ。今西野は田舎町で小さな旅館を経営していたが、苦境に陥った鷺津の要請に対して、いかなる対応と役割を？また、今東洋テレビの経済記者としてキャリアを重ねている由香は、ブルー・ウォール・パートナーズの劉からのある挑発的な申し出に対して、いかなる対応を？

## ここまでやるか！劉の蟹工船対策は？

世界的金融危機発生直後に日本で急浮上したのが、失業と派遣切り問題。また、それに呼応するかのように入気が急上昇したのが、無産政党的代表(?)である日本共産党と、小林多喜二の原作を映画化した『蟹工船』(09年)。そんな時代状況の中で製作された本作には、当然派遣切り、労働問題を取り入れなければ……。そんな観点から本作で準主役級の役割が与えられたのが、派遣工の守山翔(高良健吾)だ。

劉がアカマ自動車の実態を知るべく下請け工場の調査に赴くのはなるほどと納得できるが、そこで劉が守山に声をかけたり、食事に連れ出したりしたのは一体何のため？ここ十年来の耐震偽装、食品偽装など偽装のオンパレードの中、日本では企業におけるコンプライアンスの重要性が叫ばれてきたが、アカマ自動車のそれは十分？それとも不十分？とりわけ労働条件において問題点はなかったの？そんな風に真正面から問いつめられると、どの企業でも少しはヤバイことがあるのでは？きっと劉はそんな視点から守山に接触したのだろうが、本作ではアカマ自動車の派遣労働者対策の甘さがいかなる問題に発展するの？万一对立型の労働組合の結成という事態になれば、経営者はかなり大変だが……。

## 最新情勢を踏まえた脚本に注目！

前述のように、鷺津ファンドとブルー・ウォール・パートナーズによるアカマ自動車株のTOB合戦は価格のつりあげ競争がメインだから、意外に単純。しかも、途中からこの勝負の行方はミエミエ。そうすると現実を見据えなければならぬ企業経営者が強い方につくのは世の常だから、古谷社長の心が次第に劉の心地よい買収提案受け入れに傾いていったのは当然。つまり鷺津ファンドの全面的敗北が見えてきたわけだが、そんな状況下鷺津がひねり出した妙手とは？

そのポイントは2007年10月に発生したサブプライムローン問題と2008年9月

のリーマン・ブラザーズの破綻問題にある。さて、林宏司脚本はそんな最新情勢を脚本にどのように取り入れたの？ここで面白いのは、アラブ首長国連邦を構成する首長国のひとつであるドバイの王子を登場させたこと。ドバイは今世界的金融危機の影響をモロに受けて大混乱の中にあるが、それ以前は2004年以降の原油高の恩恵と世界の金融を集めて急激な経済成長を続けてきた。したがって王子の懐の中(?)にはありあまる資金があるのは当然？他方、鷺津がアラビア語まで操って王子と交渉するのはいくらクール(利口)なイメージの大森南朋でも失笑モノだが、本作を鑑賞するについてはそんな細かいことにはこだわらず、ストーリー展開の大筋を見なければダメ。ブルー・ウォール・パートナーズとのTOB合戦に敗北しそうな鷺津がドバイから帰国した途端に発表したのは、アカマ自動車のファイナンシャルプランナーをつとめているアメリカのスタンリー・ブラザーズに対するTOB(株式公開買付)コリヤー一体何？

それを知った劉は、中国にとって喉から手が出るほど欲しい投資企業のノウハウをもつスタンリー・ブラザーズを買収するため、アカマ自動車の買収劇とは正反対に「ホワイトナイト」の役割を買って出たから、さあ大変。ここに再び、鷺津と劉との間で、スタンリー・ブラザーズ買収をめぐるTOB合戦の火蓋が切って落とされることに。

## 劉は意外といい奴？意外な結末はあなた自身の目で

本作が6話からなるテレビドラマ『ハゲタカ』の要約版でもなければ、2番煎じでもない力作に仕上がった理由は2つある。その第1は、一方ではサブプライムローン問題とリーマン・ブラザーズの破綻という世界的金融危機を、他方ではそれを契機に日本国内で広がった派遣切り、労働問題という最新情勢をうまく脚本に取り入れたこと。そして第2は、テレビドラマにはなかった中国の国策ファンドをバックにした劉という謎めいた男を登場させたことだ。

戦後64年を経た日本では、今なお中国残留孤児問題がいろいろな局面で登場している。NHKは2009年4月18日から5月23日まで、土曜ドラマ『遙かなる絆』を全6回放映した。これは第39回大宅壮一ノンフィクション賞、第30回講談社ノンフィクション賞を受賞した城戸久枝氏のノンフィクション作品『あの戦争から遠く離れて 私につながる歴史をたどる旅』を原作とした力作で、日本人の女子大生が中国残留孤児だった父の足跡を辿っていくという物語。華々しく活躍する劉は中国残留孤児の日系3世であるとともに、鷺津とアメリカの大学で一緒だったらしいが、それはホントにホント？映画の後半少しずつ明かされていく劉の出生の秘密とは？

私は劉が派遣労働者である守山を道具のように使っていることにずっと不安を感じていた。つまり、自分が使い捨てにされたと覚った時、守山は一体どんな報復行動をとるのだろうか心配したわけだ。理屈で動くTOB合戦はいくら危険でもそれは想定範囲内だが、使い捨てられたと知って逆上した守山のような若者がナイフでも持ち出したら？劉が報酬

として提示した400万円の札束の授受をめぐって展開される劉と守山の闘争は迫力満点だが、ホントにこれで守山は納得したの？そんな風に心配していると、意外な形で劉の身に災難が降りかかってくるからそれに注目！

といっても、ネタばらしできるのはここまで。高慢チキで策士家、そして箸にも棒にもかからないイヤな奴だと思っていた劉が、ラストに至って意外にいい奴だったと思うのでは？そんな意外な結末は、あなた自身の目で。

2009(平成21)年6月11日記



(C) 2009「ハゲタカ」製作委員会

2010年1月15日レンタルリリース&同時発売  
DVD(2枚組): ¥5,040(税込)  
Blu-ray(2枚組): ¥6,300(税込)  
発行: NHKエンタープライズ  
販売元: 東宝